心に寄り添うふれあい情報誌

ひいらぎ

hiiragi
vol. 3
2023

注目のニュース!

二次救急体制の変更について

©表紙・挿し絵／プリムラ　岡崎絵手紙ボランティア「集まろまい」

愛知医科大学メディカルセンター

〒444-2148 岡崎市仁木町字川越17番地33
TEL:0564-66-2811　FAX:0564-66-2800
https://www.aichi-med-u.ac.jp/medicalcenter/

地域多機能病院として
～愛知医科大学メディカルセンターの3つの役割～

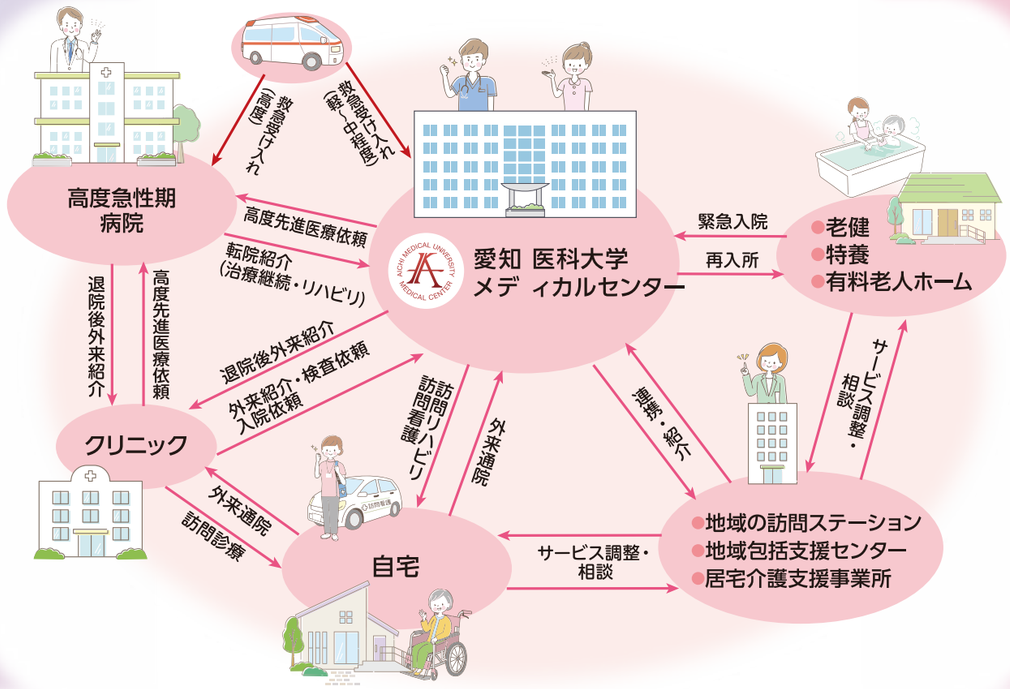
愛知医科大学メディカルセンターは急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟および医療療養型病棟を中心に地域に密着した医療を提供する地域多機能病院として、急性期から慢性期の患者さんまで大学病院との連携も行いながら幅広く対応しています。

1 メディカルセンターはこんな機能を持っています

- ☑ 疾患に応じた入院対応
- ☑ 大学病院に準じた外来
- ☑ 外来～入院まで対応する透析部門
- ☑ 24時間体制の訪問看護ステーション
- ☑ 通いながらリハビリができるデイケア
- ☑ 今年度からは365日2次救急も対応開始します

質の高い医療を行うためには、それぞれの医療機関が特徴に応じた機能を活かして、近隣の医療機関と連携・協力し合い、診療を行う必要があります。

メディカルセンターは地域の多様なニーズに応え地域と共に生きる中核病院として、これからも自分らしい生活を医療の面から支え続けていきます。



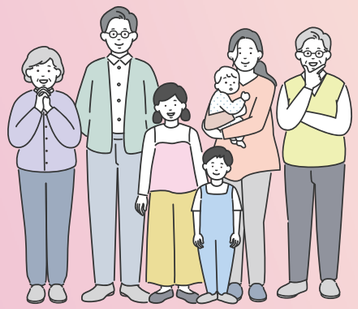
2 自分らしい暮らしをこの地で支える

メディカルセンターの持つ多様な機能を活かし、自宅や施設などこの地で少しでも長く生活できるよう支えます。

施設に入所されている方が通院や入院が必要な場合には、施設医の先生と連携し、医療を提供します 。

治療が終了したら、また慣れ親しんだ施設へ戻ることができるよう橋渡しを行います。

皆様が安心してくらせること、それが私たちの願いです。



3 どなたでも受診できる外来 大学病院に準じた専門外来で疾患を総合的に診る

当院は紹介状がなくても受診が可能です。翌日以降の電話予約も可能になりました。当日受診の方は受付時間内に受付窓口へお越し下さい。当院は科の枠を超えて患者さんの悩みに誠実に向き合います。

- 内科
- 皮膚科
- 消化器内科
- 消化器外科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 神経内科
- 腎臓内科
- 血液内科
- 糖尿病内科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 新型コロナウィルス後遺症
- リウマチ科
- 泌尿器科
- 脳神経外科
- 形成外科
- 疼痛緩和外科

＼2023年4月1日から／

救急患者さんの受け入れ体制を強化します

救急受付時間は365日次のようになります

■平日・土曜 8:30～24:00　■祝休日 8:00～24:00

診療時間外の受診方法

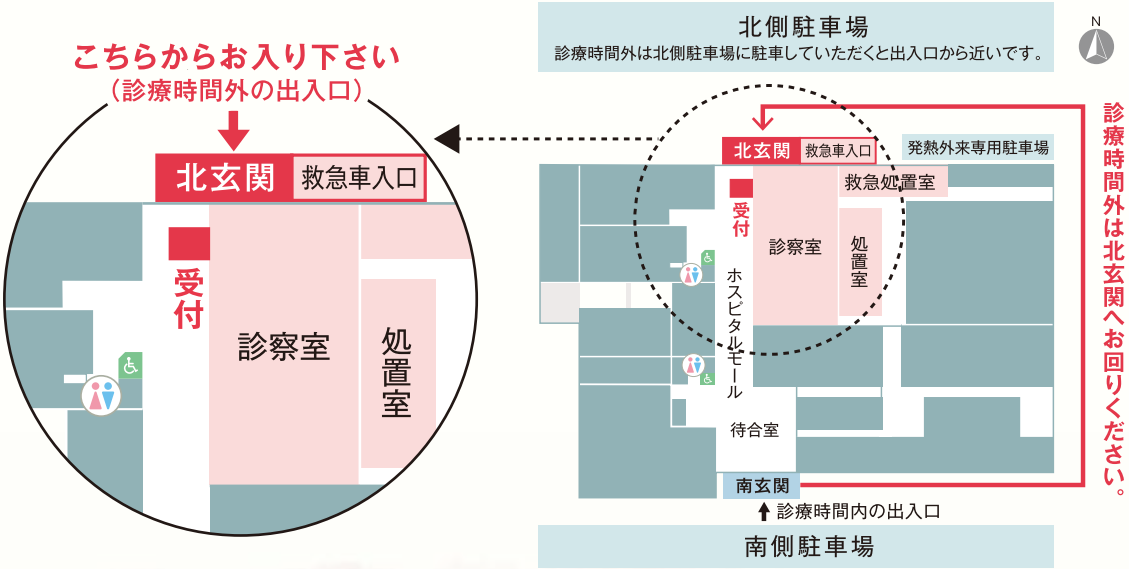
1. まず、**0564-66-2811** に電話連絡をお願いします。
   症状を伺い、受診方法をお伝えします。
   - 発熱のない方：北玄関からお入りください。
   - 発熱のある方：病院に着きましたら 0564-66-2811 にお電話ください。
2. 診療時間外は北館玄関、救急受付で診察の受付を行います。
3. 診察
4. お薬のお渡し
5. 会計は後日となります。後日、請求書を郵送させていただきます。

対象となる患者さん

●内科 ●外科 ●整形外科の患者さんが対象となります。

対応できる検査

●一般X線撮影 ●CT ●MRI ●血液検査 ●超音波検査 ●心電図　など



- **受診の際は、保険証と当院の診察券をお持ちの方は診察券をご持参ください。**
- **紹介状がなくても受診が可能です**（選定療養費は必要ありません）。

Specialist

専門医に聞く

INTERVIEW

愛知医科大学病院
脊椎脊髄センター 教授
原（はら） 政人（まさひと）

愛知医科大学病院
脊椎脊髄センター 講師
青山（あおやま） 正寛（まさひろ）

INTERVIEW

脊椎脊髄外来のご紹介

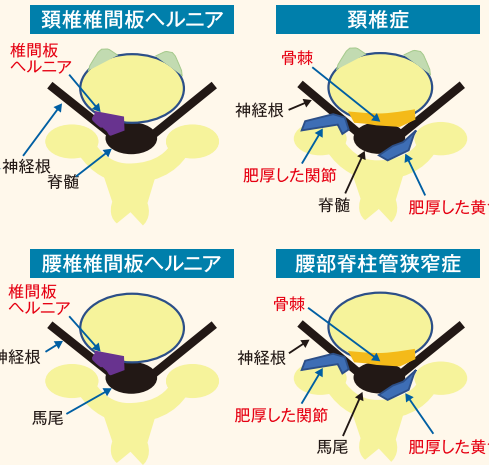
この度、当院で脊椎脊髄外来が新たに開設されました。脊椎脊髄外来では、愛知医科大学　脳神経外科、脊椎脊髄センターと連携をとりながら、脊柱およびその中を走行する神経が原因で生じる疾患の治療を行います。様々な疾患がありますが、当院では特に脊椎変性疾患を対象として診療を行っていきます。

脊椎変性疾患とは

一言で脊椎変性疾患といっても、そこには頚椎椎間板ヘルニア、頚椎症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症などの様々な疾患が含まれます。圧倒的に高齢の方に多い疾患で、そのため高齢化の進む日本において増加の一途をたどっています。

重力に抵抗し、同一姿勢で長い時間生活を送っていることにより、脊柱に大きな負担がかかります。その結果として、脊柱を構成する椎間板、靭帯、関節や椎体、椎弓といった骨に負荷がかかり、変化をきたしてきます。こういった変化は脊柱のどの部位にでも生じ得ますが、動きが大きく体重もかかる腰椎で多く、次いで頚椎に多くみられます。

どの疾患においてもこれらの変化によって神経が圧迫されて、しびれや痛みなどの感覚障害や、運動障害といった神経症状を呈してきてしまいます。



脊椎変性疾患の当院での治療方針

加齢とともに脊柱の変化をきたす場所は複数生じてくるため、MRIなどの画像では非常に多くの部位で神経が圧迫されているように見えてしまいます。しかし、これらの変化のみられるすべての部位で神経症状をきたしているわけでは決してないため、我々は詳細な病歴聴取、神経診察を行い、その上でレントゲン、CT、MRIなどの画像検査、場合により電気生理学的検査を行い、現在患者さんを苦しめている症状の原因の部位を特定（神経高位診断といいます）し、治療方針を提案していきます。

多くの疾患では、まずは内服治療やブロック治療、リハビリテーションといった保存的治療を行っていくことになります。最近では薬剤の進歩により、この保存的治療のみで問題なく日常生活を送れる患者さんも多くなりました。当院では愛知医科大学　疼痛緩和外科から派遣されている痛みのエキスパートである寺嶋祐貴医師が常勤医として勤務しているため、この保存的治療を最大限に行える環境にあります。

一方、保存的治療で改善しなかったり、強い感覚障害や運動麻痺で生活に支障がある場合は、早期から外科的治療（手術）をお勧めする場合があります。手術に関しては、われわれ愛知医科大学　脳神経外科、脊椎脊髄センターの原政人あるいは青山正寛とその他のスタッフで担当しています。手術室も改修し、顕微鏡下での頚椎前方除圧固定術、頚椎拡大椎弓形成術、腰椎椎弓形成術、腰椎椎間板ヘルニア摘出術などの多くの手術が施行可能となっています。また、全身状態が悪い患者さんや当院では対応困難な高難易度手術に関しては、愛知医科大学病院へお連れし、そちらで手術を行う体制を整えています。

脊椎脊髄疾患において、これらの診断と治療はもちろん重要ですが、手術前の症状の程度や罹病期間によっては、手術で神経の圧迫を取り除くだけでは日常生活に復帰するには不十分な方もいます。弱った筋力や身体機能を改善させるには、手術後のリハビリテーションが非常に重要です。当院は、もともと整形外科の関節手術や怪我の後のリハビリテーションに力を入れている病院であったことから、今でも近隣病院からリハビリテーション目的の患者さんを数多く受け入れています。そのため当院で手術を行えば、より速やかにリハビリへと移行することができ、術後の身体機能の低下を防ぐとともに、日常生活へのより早期の復帰をサポートすることができます。

手足のしびれや痛み、手の使いづらさ、歩きにくさなどでお困りの方は、ぜひ一度脊椎脊髄外来へご相談ください。

Interview

対談 「リハビリの大切さに気付くことができました」

（左から　理学療法士、渡邉隼也さん　鳴海健さん）

鳴海 健さん（50代）
2018年脳出血で入院後、継続的にリハビリを受診。また、2022年にも骨折のため入院し、リハスタッフが施術を担当。

―以前脳出血で入院されたと伺いました。その時の入院の担当も渡邉さんで今回の担当も渡邉さんと伺いました。入院された当初は不安な気持ちは大きかったですか？

鳴海　そうですね。やっぱり初めてだったので、どれくらいのリハビリとかどのように進んでいくのかも最初全くわからなかったけど、渡邉君などからいろいろ指導いただいてすごくスムーズにリハビリを進めることができました。

―脳出血の時のリハビリはどのように行いましたか？

渡邉　何年前でしたっけ？

鳴海　5年前だね。

渡邉　脳出血だとある程度自然回復の時期があって、そこからリハビリを頑張って治っていく時期があって、というかたちなので、患者さんに多いのが、一度回復が止まって不安な気持ちが出てくるとか、これ以上良くならないのではないかと感じてしまう方がいます。その辺はあらかじめある程度の時期で回復が止まっても、またそこからリハビリを頑張れば良くなりますよとかを声掛けするように意識しています。リハビリは毎日同じ訓練の繰り返しになりますが、できるようになってきたことを伝えつつその変化に合わせてリハビリの難易度もあげています。それもフィードバックというか本人に伝えつつ、これができるようになってきているんだなと実感してもらいながらリハビリを行っています。

―実際に渡邉さんのリハビリを受けてみてどうでしたか？

鳴海　厳しかったですよ（笑）やることやることハードな感じでした。でも、そのハードをクリアしていけば、次に段々進んでいく感じを体で感じることができるのでよかったです。

―渡邉さんの第一印象はどうでしたか？

鳴海　第一印象は、目力強くて怖いって思いました（笑）でも、リハビリ中もいろいろ話しかけてくれるし、不安なところも排除してくれるので、その辺は助かったなと思っています。

―今回は骨折で入院されてどんなところに力を入れてリハビリを行いましたか。

渡邉　鳴海さんの場合は麻痺もあったので、筋肉の緊張のコントロールとかそういうところが難しかったです。痛みが出ると緊張が上がってバランスが取れなくなってしまうというところがありました。緊張のコントロールは運動の難易度が高すぎても緊張が出てしまうし、低すぎたら低すぎたで良くなっていかないので、いいレベルのところを探りながらリハビリを行っていきました。

―入院期間は長かったですか？

鳴海　長かったですね。最初は2カ月くらいと聞いていたのですが、2カ月だと車いすからようやく脱却した段階で、あと1カ月で歩けるのかなと感じるくらい遅かったです。麻痺がある分遅かったですね。焦りもありましたけど最終的には立って一人で歩けるくらい回復しました。今、歩けているのも渡邉君のおかげなので感謝しています。

―入院生活はどうでしたか？

鳴海　今振り返ってみると、入院するのはあんまりよくないけど、楽しかったですね。退院できるのはうれしいですが、管理をしてもらえなくなるので、そういうところは寂しいですね。

鳴海さんのリハビリプログラム

- **筋力強化**
  - ・スクワット
  - ・階段昇降
- **バランス強化**
  - ・横歩き・後ろ歩き
  - ・速歩
- **歩容（歩き方）改善**
  - ・トレッドミル歩行

検査で使用する放射線について Q&A

Q 放射線とはなんですか？

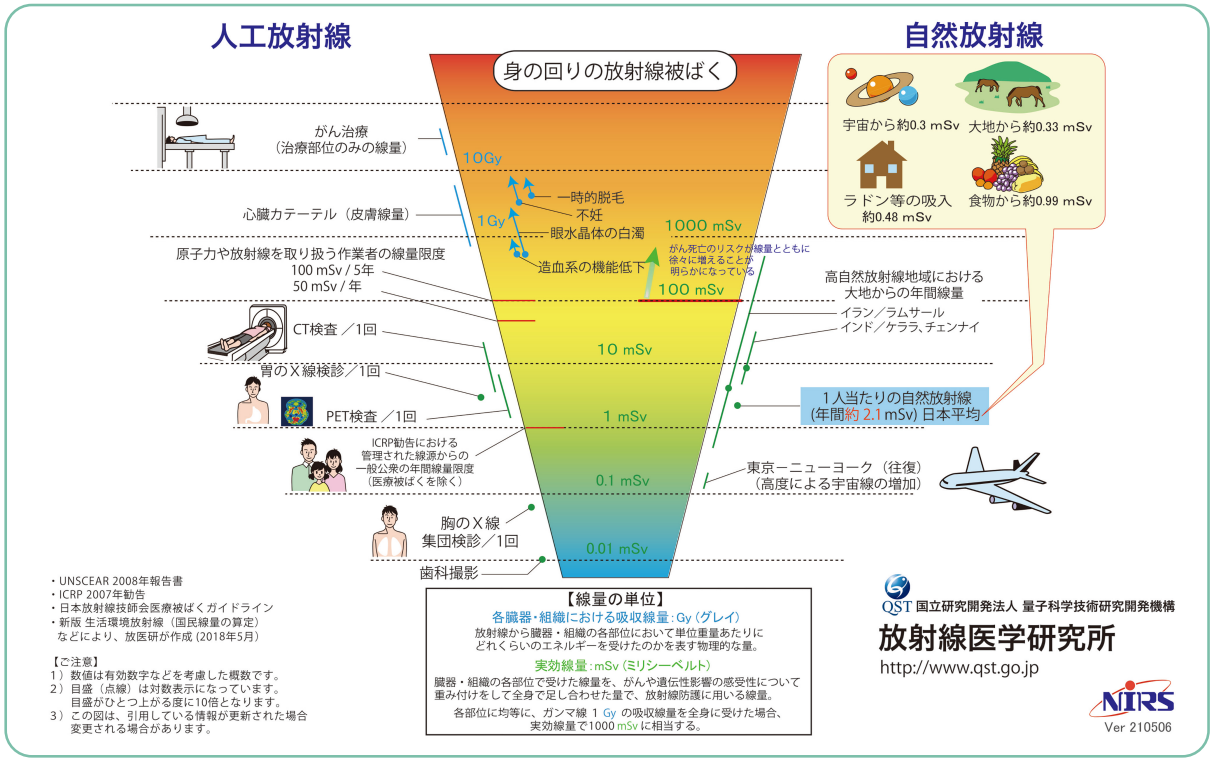
A 放射線には、X線、γ（ガンマ）線など多くの種類があり、医療をはじめ様々な分野で利用されています。医療では、X線を使うことにより、身体を傷つけることなく、病気の診断や治療ができ、私たちの健康を守るのに役立っています。放射線は、現代の医療において必要不可欠なものとなっています。

Q 何回もX線検査を受けているのですが、大丈夫ですか？

A 放射線を被ばくすることによって、遺伝的影響や発がんに関係すると考えられていますが、検査に使用する放射線の量はごくわずかです。放射線を用いた検査は、その危険性よりも、検査の利益の方が十分に上回る場合に、必要最小限の放射線量で行います。安心して検査を受けてください。

Q 私たちはX線以外にも放射線を受けていると聞きましたが？

A 私たちは、自然界から様々な形で自然放射線を受けています。外国には日本に比べて自然放射線の量がとても多い地域がありますが、人体に対して放射線の影響が現れたという証拠はありません。



出典　放射線医学研究所

診療放射線技師からのお願い

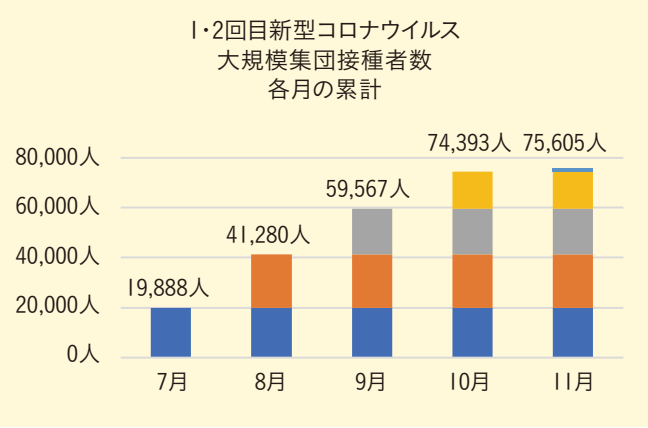
- 放射線室での検査中、動いてしまうと画像がぶれてしまいます。できるだけ動かないようお願いします。姿勢がつらい場合などは、無理せず放射線技師に教えてください。
- 撮影時の『位置決め（体位）』は検査の質を大きく左右します。体に触れるのは最良の体位で撮影するためです。ご理解、ご協力をお願いします。

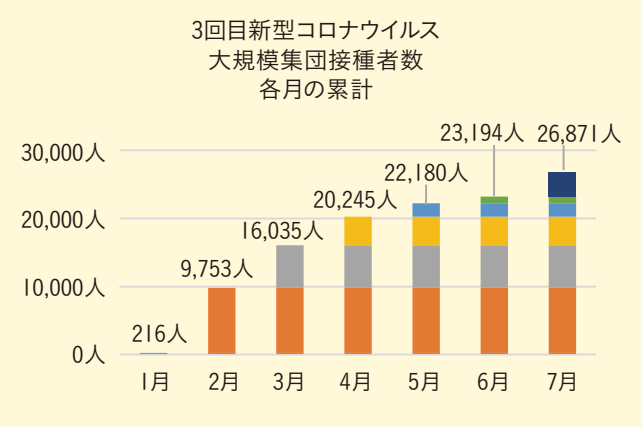
新型コロナワクチン 大規模集団接種実績報告

令和３年７月３日から令和３年11月19日までの間、岡崎市、豊田市、知立市、みよし市の方を対象に、愛知県の新型コロナワクチン大規模集団接種会場として１回目・２回目接種（モデルナ社製ワクチン）を実施しました。この期間で75,605人の方に接種を行いました。また、令和４年１月31日から7月31日の期間で、３回目接種を実施し26,871人の方に接種を行いました。

さらに、令和４年３月５日から毎週土曜日（10時～15時）に小児（5歳～11歳）に対する1回目・２回目のワクチン接種（小児用ファイザー社製ワクチン）（30人/日、3月26日から40人/日）を実施し、令和4年3月5日～3月31日の実施期間で127人の方に接種を行いました。

たくさんの方のご協力により、運営することができました。心より感謝申し上げます。これからも皆様に信頼される病院になれるよう尽力して参りますので、よろしくお願いいたします。





当院でリハビリ入院されている患者さんの作品の一部をご紹介します！

ほのぼの美術館 IIII

作品名『春』

色画用紙をくるくると巻き、接着剤で画用紙に貼りつけて、春の花を表現しました。
（みえさん・50代）

作品名『遠望近景』

食堂から見える景色を水彩画で描きました。
（健蔵さん・90代）

採用情報

気軽にご連絡ください！

病院ホームページもご覧ください！

https://www.aichi-med-u.ac.jp/medicalcenter/sb06/index.html

愛知医科大学メディカルセンター

病院広報誌「ひいらぎ」
ご意見・ご感想募集

病院広報誌「ひいらぎ」のご意見・ご感想を募集しております。皆さんの意見をふまえてより良いものになればと思っております。受付に置いてあるアンケート用紙またはQRコードから簡単なアンケートにご協力ください。
ご回答いただいた方の中から抽選で愛知医科大学メディカルセンターグッズを差し上げます。

お待ちしてます！

愛知医科大学メディカルセンターの理念

理念

地域を守り共に生きる中核病院として，患者本位の医療を目指します。
- 社会の信頼に応えうる医療機関
- 人間性豊かな医療人を育成できる教育機関

紹介状のご持参がない場合でも、別途、選定療養費はかかりません。

「かかりつけ医」から地域医療連携室を通して事前予約が可能です。
当日予約外でも受診可能です。

絵手紙スケッチがかけるようになりたい人のためのグループ

絵手紙ボランティア「集まろまい」

簡単なスケッチが描けるようになりたい人、一人ではちょっと…という人が集まり活動しています。

- 開催日　毎月　第3土曜日（スケッチ先は毎月変わります）
- 会　費　年間　1,000円

講師はおりません。ご興味がある方は、是非ご連絡ください。

お問合せ先　0564-54-3651　担当者　岩田

病院の表紙に絵手紙が掲載されています。総合受付横にも季節の絵手紙を掲示してありますので是非ご覧ください。

編集後記

「ひいらぎ」第3号を手に取ってくださりありがとうございます。本号では地域多機能病院としての当院の役割、二次救急体制の変更、新しくなった病院施設、患者さんの作品などをご紹介しております。前号までよりページ数を増やして発刊いたしました。ご参考にしていただければ幸いです。引き続き「ひいらぎ」第4号に向けて作品を募集しています。俳句・短歌・川柳・写真・わたしの○○自慢に、奮ってご応募ください。

広報委員会委員長　加藤義郎

■2023年4月発行　■編集・発行／愛知医科大学メディカルセンター広報委員会

お問い合わせ
愛知医科大学メディカルセンター 事務部 総務課　TEL：0564-66-2826／mc-soumu@aichi-med-u.ac.jp
※皆様からの作品等、ご応募お待ちしております。
ご興味のある方は、是非愛知医科大学メディカルセンター 事務部 総務課までお問合せください。